

令和 7 年度
宇治市総合計画審議会
第 1 回専門部会②
議事要旨

宇治市

宇治市総合計画審議会第1回専門部会② 議事要旨

<開催年月日>2025(令和7)年10月18日(土)13時～15時10分

<開催場所>市役所8階第会議室

<出席者>

・委員

学識経験者

酒井 久美子(部会長) 京都ノートルダム女子大学現代人間学部 教授

柿原 禎宏 京都教育大学教育学科 教授

関係団体役職員

入江 剛 宇治市連合喜老会 副会長

奥西 隆三 社会福祉法人宇治市社会福祉協議会 監事

佐野 恵理子 一般財団法人宇治市スポーツ協会 副会長

多田 ひろみ 宇治市女性の会連絡協議会 会長

市民公募委員

菅原 祐香 市民公募委員

高原 貴久子 市民公募委員

星 紗矢香 市民公募委員

計9名

・理事者

松村 淳子 市長

・公室長

秋元 尚 市長公室長

・部長

荻野 浩造 総務・市民協働部長

脇坂 英昭	産業観光部長
前田 貴徳	人権環境部長
松井 友和	福祉こども部副部長
星川 修	健康長寿部長
米田 晃之	都市整備部長
福井 康晴	教育部長

・総合計画審議会事務局

大北 浩之	政策企画部長
須原 隆之	政策企画部副部長
佐々木 卓也	政策企画部政策戦略課長
辻 親雄	政策企画部政策戦略課副課長
服部 和夫	政策企画部政策戦略課係長
望月 聖太	政策企画部政策戦略課主任

計 15 名

<審議会次第>

1. 開会
2. 副部会長の選任について
3. 議事
 - ① 第 6 次総合計画第 2 期中期計画重点施策(案)について
 - ② 分野別素案について
4. 閉会

<会議内容>

1. 開会

【事務局】

それでは、定刻になりましたので、会議をはじめさせていただきます。本日は公私ともにご多用のところご出席いただきありがとうございます。

本日の専門部会③ではまちづくりの方向における「子育て・子育て支援が充実したまち」「誰もがいきいきと暮らせるまち」を所管いただき、それぞれに紐づく分野について審議をお願いします。開会に先立ち、欠席者についてご連絡します。

◇欠席者の説明(幸道委員、小永井委員、前畑委員 計3名)

宇治市の出席者は、専門部会の各部会に関連する部長が出席し審議を進めさせていただきます。みなさま、忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

続きまして、事前送付資料及び当日配布資料の確認をさせていただきます。

事前送付資料は「会議次第」「資料1 第2期中期計画重点施策(案)」について「資料2 宇治市第6次総合計画第2期中期計画(素案)」「参考資料 宇治市第6次総合計画序論(素案)」です。また、本日、配布しております資料は「席次表」「宇治市総合計画審議会専門部会委員名簿」「宇治市出席者名簿」です。資料に不足はございませんでしょうか。

それでは、本日の議事をご案内します。本日は、次期中期計画における重点施策(案)及び分野別素案を提示し審議をお願いしたいと考えています。また、参考資料として添付しています序論(素案)は計画を冊子にする際に掲載する項目ですが、審議会で議論いただく内容ではないため、時間の都合上、説明は割愛します。

【部会長】

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。ご指名をいただきましたため部会長として議事を進めさせていただきます。

まず、はじめに連絡事項をお伝えします。本日の会議に傍聴の申請がありましたため、承認しましたことをご連絡いたします。

それでは、専門部会を開催します。本日は専門部会1回目となるため、委員のみなさまには改めて自己紹介をお願いします。市の職員のみなさまの自己紹介もあわせてをお願いします。

《自己紹介》

2. 副部会長の選任について

【部会長】

宇治市総合計画審議会運営規則第2条の定めに従い、副部会長の選任をさせていただきます。

【委員】

この部会は「誰もがいきいきと暮らせるまち」が一つのテーマです。少年野球に所属している孫を見ているとスポーツの力は非常に大きいと感じるため、佐野委員を推薦したいと考えています。

◇一同了承

【部会長】

副部会長の選任が終わりましたため、審議を進めていきたいと思います。専門部会では活発な意見を期待して、出席者同士が向かい合う席としています。忌憚のないご意見ををお願いします。

3. 議事

① 第6次総合計画第2期中期計画重点施策(案)について

【事務局】

それでは、議事①第6次総合計画第2期中期計画重点施策(案)について事務局より説明をお願いします。

《資料①第2期中期計画重点施策(案)について》

【部会長】

資料の説明に対してご質問やご確認があればお願いします。なお、会議録を作成するため、発言の際はお名前のご発言をお願いします。

【委員】

p.5 の施策の視点 2「就職・結婚から出産、子育てまで切れ目のないサポート体制の構築」は、現在、子育てしている方の支援が中心となっているため、婚活支援や不妊治療などへのサポートも施策の一例に含めていただけるとよいと思います。個人の力だけでは限界がありますし、不妊治療の際の相談窓口がわかりにくく、費用も高額です。助成制度についてもわかりやすく情報発信してもらえるとよいと思います。

【事務局】

結婚・出産が個人の力のみでは難しい点をご指摘とおと考えています。また、一例と挙げていただいた不妊治療についても助成制度がありますが、知られておらず PR 不足を感じました。ホームページ等での情報発信を強化しつつ、他団体事例についても調べながら今後取り組んでいきたいと思っています。

【委員】

p.3 の施策の視点 2「犯罪や事故が起こりにくいまちづくり」について、「起こらない」と言い切ることは難しいにしても「起こりにくい」は言葉を変更する方がよいと思います。

【事務局】

「犯罪や事故が起こりにくい」は、暗い場所など人の目が及ばない場所に防犯カメラを設置するなどをイメージしていたが、ご意見を踏まえて再検討します。

【部会長】

予防などの表現がよいと考えるため、再度ご検討いただければと思います。

【委員】

p.5 の施策の視点 2「就職・結婚から出産、子育てまで切れ目のないサポート体制の構築」はありがたいが、マッチングなども施策の一例にあるとよいと思います。

また、宇治市の課題である若者の転出への対策も施策に入れていただきたいです。例えば、有名な学校や大企業の誘致、駅前の開発などが p.10「将来の発展につながる都市基盤」や p.8「雇用の創出と安定」に含まれているとよいと思います。

【事務局】

若い方が住み将来につながるまちづくりを進めていますが、表現しきれていない部分があります。産業用地や拠点となる駅前開発などに取り組んでいるため、より魅力的なまち、拠点となるようわかりやすく表現することを検討します。

【部会長】

p.8 か p.10 のいずれに掲載する内容か確認したいです。

【事務局】

p.9 は働く場所の創出ですが、p.10とも関連があるため整理を検討します。

【部会長】

高齢者も働き続けられるまちづくりも必要ですし、地元で働きやすいことも必要と感じましたが、いかがでしょうか。

【委員】

そのように感じます。また、私は駅前の賃貸マンションに住み、その後、宇治市の魅力を感じて家を購入して宇治市に住むことになりました。最初に便利のよいところに若い方に住んでもらうことが必要であると考えます。

【部会長】

雇用に限定せずに、まずは住んでもらうことが重要というご意見でしたがいかがでしょうか。

【事務局】

選んでもらえるまちにしていけるため、どのように魅力を発信していくかが重要だと思いました。魅力を感じてもらうため、様々な部署や分野が連携してまちづくりを進めていく必要があるという視点を持って、整理したいと思います。

【委員】

前回「こどもまんなか」について議論し、名称変更を検討いただいたと思います。こどもは弱者であるため、こどもにやさしいまちづくりはすべての世代にやさしいまちづくりになると思います。

【委員】

「こどもまんなか」という言葉はよいと思います。

【委員】

こどもがいる家庭とこどもがいない家庭で同じことでも捉え方が異なると思います。こどもがいない家庭では疎外感を感じると思います。

【委員】

重点施策2の「子育てにやさしいまちづくり」「子どもが育つ環境づくり」という2つの柱について、大きなテーマは同じであると思います。柱それぞれではなく大きいテーマとして内容を整理し、含みのある言葉にするとよいと思います。特に、柱1「子育てにやさしいまちづくり」の施策の視点2は結婚、出産、子育てではなくより含みのある言葉が考えられると思います。

【委員】

現在、こどもの環境は児童虐待が増えていると思います。こどもが健やかに育つことは夫婦が育つことにつながると思います。目に見える現象であるため、これを解消することですべてがよくなるため「こどもまんなか」とすることはよいと思います。

【委員】

こどもがいる人もいない人もいます。こどもがいなければ社会は回らないため、自分のこどもだけでなく、どの家庭のこどもみんなで育てていくことをイメージしていると思います。ただし、不妊治療を頑張っている方もいると思います。さらに、既にこどもができない方もいると思います。自分のこ

どもが現在、胚培養士をしており、つらい思いをしている方がいることも聞いています。個人としては辛い場面もあるかもしれませんが、市の施策としては重要な取組であるため、視点を変えていけないかなと思います。

【委員】

お話を伺った中で個人的には「こどもまんなか」より「こどもが健やかに育ち、誰もが尊重され活躍できる地域共生社会」という表現がよいと思います。

【部会長】

「次世代を担うこどもが」という表現などがよいかもしれないですが、「こどもまんなか」という表現に市としてどこまでこだわるかで最終的に決まることになると思います。

【委員】

「こどもまんなか」という言葉のイメージが男性と女性がいてこどもがいるというイメージになっていると感じました。婚活イベントについて参加者、多様なカップルを想定されていないとも思いました。「こどもまんなか」という表現は避けた方がよいと思います。

また、障害のお話もあったが、自治体により「がい」「碍」などと表現することもあります。戦前は「碍」を使っていたためこの表現のほうがよいと思います。

【部会長】

ご意見を踏まえて、次回までに市の方でご検討いただき提案していただく流れになると思います。

【事務局】

障害の表現についてご意見をいただきました。国の制度に基づいた表現としていますが、表現方法は様々であるため、どの表現方法がよいか検討します。

【委員】

p.7「誰もが住みやすい共生社会」の施策の視点3「誰もが住みやすい地域づくり」の3つ目「人口減少・少子高齢社会における公共交通の充実」についてです。公共交通について、自分の周り

にも高齢者が多く免許証返納している方も多いです。移動手段や体調(例:膝が悪いなど)のことも考えて日常生活に必要な移動手段の確保について検討が必要であると考えています。また、p. 3「市民の命を守る安全・安心の確保」の施策の視点2「犯罪や事故が起こりにくいまちづくり」は高齢者の事故は一例として考えられていないと感じました。高齢者の方も充実していけるとよいと思います。

【事務局】

公共交通は、特に高齢の方の移動手段が課題となっています。一方で、電車やバスは利用していただかないと維持ができないという側面もあります。まず、公共交通をどのように将来にわたって残していくかを考えて取組を検討しています。バス停から一定距離があり、丘陵地域、平坦地域、山間地域の3つをモデル地区に選定し、乗り合いのタクシーの実証運行を直近で取り組みを始めたところです。高齢者の安全対策は免許返納が増えてきている一方で、車に頼らざるをえない方もいるため、安全講習を警察と連携して取組を進めています。

【事務局】

いただいたご意見を踏まえて、次回、内容を再整理して提示します。市としてこどもにやさしいまちはみんなにやさしいまちと位置づけ取組を進めてきています。こどもがいない方もおり、こどもも1人の人格者としてとらえることの必要性などさまざまなご意見をいただきましたため、次回よりよい提案につなげていきたいと考えています。

【部会長】

次回に向けて内容の検討・更新をお願いします。

② 分野別素案について 1時間

4. 【部会長】

それでは、次の議題に移りたいと思います。分野別素案について事務局より説明をお願いします。

《資料②宇治市第6次総合計画第2期中期計画(素案)について》

【部会長】

資料の説明に対してご質問やご確認があればお願いします。

【委員】

分野の番号が第1期中期計画と異なる理由を確認したいです。

【事務局】

前回の審議会で全体骨子を提示し、一部、分野の分割と統合をご提案させていただきました。具体的には、防災と河川・治水を分割したため、以降の施策の番号が異なっています。

【委員】

p.31 分野 19「男女共同参画の推進」の指標「各種審議会等における女性委員が占める割合」について、水道の審議会にも参加していますが、女性委員が少ないと思います。また、20～30代の女性は自分1人であった。総合計画審議会は土日や夜間開催のため、働き世代も参加しやすいと考えられます。水道の審議会は平日の昼間に開催されているため、市役所職員の負担が増える可能性はありますが、平日の夜や土日に会議を開催していただければ、女性委員の割合目標の達成にもつながると考えます。

【事務局】

一般的に審議会における女性の割合は50%がよいと言われていますが、女性の意見が政策に反映されることが重要と考えています。人権環境部としては、審議会を持っている担当部署に女性割合を増やせるよう呼びかけることに加え、女性団体へのアプローチにも取り組んでいます。また、会議の開催日時についても女性や若者の参加を見据えて取組を検討していきます。

【委員】

p.8の「宇治西小倉学園の整備などを通じた、児童生徒の主体的で多様な学びの推進」についてどのような取組か教えていただきたい。文章だけでは意味合いがわかりにくいです。

【事務局】

西小倉中学校の敷地で小中一貫校として宇治西小倉学園という名称で建設を進めています。宇治西小倉学園の開校という機会を生かし、一方的に教えるのではなく、主体的に学ぶ子どもたちを育てていく教育を改めて進めていくという方向性を示すため、このような記載としています。

【委員】

p.5 や p.7 で「切れ目のない」という表現や「連続性」という表現となっていますが、「切れ目のない」に統一するほうがわかりやすいと思います。また、幼小連携はありますが、小中連携も必要になると思います。

【事務局】

「切れ目のない」と「連続性」という表現について、シームレスにつながることを示しており、連続性は1つ1つのステップをつなげることを表現していますが、表現方法を再検討します。

保幼小連携は、就学前施設と小学校をつなげていく取組に重点的に取り組んでいます。小中連携は、施設一体型の小中一貫校として2校目の宇治西小倉学園が開校を進めています。また、取組としても中学校の先生が小学校に行ったり、その逆のケースもあるなど、小中一貫型の教育ができるような小中連携も進めています。

【委員】

p.8 の「児童生徒一人ひとりの資質・能力の育成」について何の資質・能力を育成したいのでしょうか。

【事務局】

確認の上、適宜修正します。

【委員】

p.19 の目標達成に向けた主な取組に「ウォーキングアプリの活用」とありますが、ウォーキングアプリを使用となると、スマートフォンの使用時間が増えてしまう可能性があると思います。宇治市のイベントとして宇治ウォークと源氏ロマンがあると思いますが、前者はアプリを活用したイベント、源

氏ロマンはアプリとウォーキングマップを活用したイベントであったかと思います。スマートフォンを持っていない方でもイベントに参加できるよう、ウォーキングマップの活用がよいと思います。

【事務局】

歩く距離や時間が短いことが課題であるため、アプリ内でインセンティブを設けています。また、主なターゲットは40歳代などとしており、比較的若い年代から運動習慣を身につけてもらうための取組としています。

【委員】

高齢者と接する機会が多いが、高齢者も9割程度スマートフォンを持っていると思います。

【委員】

p.22のフレイル対策について、フレイルになってからでは遅いため、「フレイル予防対策の推進」がよいと思います。

【事務局】

病気になる前に予防が重要と考えています。

【部会長】

フレイル対策と同じページに「ICTによる業務の効率化など認定・給付の適正化」とありますが、ICTによる業務効率化が認定・給付の適正化に繋がるか確認したいです。

【事務局】

ICTの活用例として、介護認定調査員が各家庭に出向いて調査する際にタブレット端末を使用しています。介護保険制度の持続性確保のためにはICTの活用が必要ということを表現したかったのですが、内容は精査します。

【委員】

p.11 の「家庭・学校・地域の連携・協働促進」の主な取組の中に自主学習の場をつくるという取組を入れてほしいです。図書館や市の施設を使って自由に勉強できる場所がないためあるとよいと思います。

また、p.26 の「市民が学べる環境の充実」について、宇治市の図書館の利用は他の自治体と比べると開館日数や開館時間が少なく短いです。茨木市にある文化・子育て複合施設「おにクル」がうらやましいため、宇治市にも同じような施設があるとうれしいです。

【事務局】

自主学習の場所を新たに設けることは難しいが、ご意見を踏まえて表現方法を見直したいと思います。家庭学習の時間の重要性は認識しており、学校以外での学習時間を増やすための取組は検討しています。また、図書館については図書館の事業計画策定において市民アンケートを実施しており、図書館の利便性の向上に関する意見をいただいているため、施策を検討していきたいと考えています。

【事務局】

市民協働の視点から発言させていただきますと、市民の自主的な取組で NPO を中心に「まちのリビング」に取り組んでおられ、放課後子どもの居場所事業もあるため、このような取組を情報発信していきたいと考えています。

【部会長】

家庭教育の充実はよいですが、共働き世代が増えているため、子どもが安心して勉強できる場所があれば親も安心できると思いました。

【委員】

p.27 の「スポーツを通じたまちづくりの推進」の成果指標4「スポーツを通じて連携した都市間交流数(延べ)(件)」について、現在どの市町村と連携しているかお聞きたいです。

【事務局】

京都国体がきっかけとなり、宇部市と連携しています。サッカーをしているグループ同士から連携がはじまり、本年度は 30 年目を迎え、毎年交互に行き来を続けています。連携協定や災害協

定など締結している市町村もあるため、このような市町村も含めて、都市間交流をさらに増やしていきたいと考えています。

【委員】

p.26「市民が学べる環境の充実」の「生涯学習施設の利便性の向上」について、図書館行のバスを増便してもらえるとよいと思います。

【事務局】

図書館は3館あり、アクセスについてのご意見もアンケート等でいただいておりますが、図書館に行くためのバスを準備するのは難しいです。そのため、予約図書の配本サービス事業にも取り組んでいるため、図書館の利用方法の1つ選択肢としていただければと考えています。また、電子図書館にも取り組んでおり、図書館に足を運ばなくても便利に利用できるよう、様々な方法の提供を検討していきたいと考えています。

【部会長】

p.14の「市民主体の地域づくりの推進」の主な取組の1つ目、「多様な組織が相互に連携・協力できる仕組みづくり」とありますが、協働に表現を統一してほしいです。また、「地域が主体性を発揮できる」の「地域」という表現は人によって解釈が異なるため、言葉の定義も整理をお願いしたいです。

主な取組の2つ目「多様な交流空間の創出」について、新たな「きっかけ」づくりや「つながり」を生む交流空間を創出とありますが、どのようなきっかけづくりなのか分かりにくいです。主な取組の4つ目「子どもにやさしい地域づくりの推進」の説明の一部が「まち全体」となっており、主な取組6つ目では一部が「社会全体」の表現となっています。地域づくりを踏まえて「地域で様々な」とするのか、「地域社会全体で」とするのか言葉の定義や表現の整理をお願いします。同じく取組6つ目では、「多様な主体」とありますが、多様な主体が何に参画するのかが分かりにくいです。健康を支えるつながりづくりに参加するのであれば、そのような記載をお願いします。主な取組7つ目「生涯にわたる学びやスポーツ・文化を通じた交流・連携」に「人と人、人と地域がつながり、互いに支え合う環境づくり」の項目が適しているかが分かりにくいです。主な取組8つ目「まちづくりにおける連携・協働」に、「行政、市民及び地域がともに、まちづくりの目標を共有することによる地域の

一体感の醸成」とありますが、行政や市民と並べられる地域は組織のことか、使い分けや定義が分かりにくいです。以上、表現が気になったところを再検討してほしいです。

p.17 の「ともに支え合う地域共生社会の実現」の3つ目の「地域のネットワークづくりの推進」について、ネットワークづくりの活動支援か、課題を解決する様々な活動の支援があつてのネットワークづくりの支援かにより表現を変える必要があると考えます。

【事務局】

市民主体の地域づくりの主な取組は、分野横断的に取り組んでいます。それぞれの目的や施策の方向性が整理されていないため、わかりにくくなっているように思います。読む方にとってわかりやすくなるよう連携しながら、内容や表現を整理していきます。

【事務局】

p.17 の「ネットワークづくり等の活動支援」は、社会福祉協議会が取り組んでいる学区福祉委員会や地域つながり活動支援事業等、地域のつながりを作っていく事業がありますが、我々としてはそのようなネットワークづくりの活動を財政的・人的に支援していきたいと考えており、このような表現になっております。

【委員】

p.17 財政的支援も検討しているとのことでしたので入れていただけるとよいです。また、主な取組2つ目「地域福祉を支える人材の育成」について、「幅広い年代層の参加手法」という記述がありますが、参加手法の具体的な内容も追加するとわかりやすいと思います。

【事務局】

参加手法について、より具体的な内容の整理を検討します。

【部会長】

p.17 主な取組2「地域福祉を支える人材の育成」の説明の「民生児童委員との連携」とは、民生児童委員と行政が連携するという理解でよいか確認したいです。地域を支える人材は、人材発掘や育成について区別して記載してほしいです。

【事務局】

民生児童委員と行政の連携をイメージしています。具体的なイメージを持ってもらえるような記載内容を検討します。

【委員】

p.22 の主な取組3「地域における認知症との共生」に「れもねいど」を記載してほしいです。

【事務局】

宇治市認知症アクションアライアンス「れもねいど」があり、市内 92 団体あります。認知症にやさしいまちづくりに協力してくださる人が集まっており、宇治市としても取組として重要と考えていますが、表現は検討させていただきます。

【委員】

p.34の主な取組1「多文化共生の推進」とありますが、弱者として効果的な支援を図るだけではなく、主体的な参画を促して多文化共生を促すことが必要と考えます。

【事務局】

外国人人口が増加しているため、表現については検討します。

【委員】

p.23 の「障害者が暮らしやすいまちづくりの推進」の成果指標「計画期間内に施設入所から地域生活に移行する人数(延べ)(人)」は、高齢者の方も含んでいますでしょうか。

【事務局】

成果指標は、地域共生ということも踏まえ、施設から出て地域で生活をする方の人数を設定しています。

【委員】

施設から地域に帰られた方が、地域で何年も継続して生活できているという指標であれば、成果指標として必要な数値と考えます。単に施設から地域に帰られたという人数が大事なのではなく、帰られた後、支援者等の助けを借りてしっかりと自活できているというのが、実際に地域移行を迷われているご家庭の方にとって知りたい数字であるように思います。

高齢者の障害者を捉えているようにしか見えないように感じます。視覚障害や聴覚障害で支援学校を出てから地域で暮らしやすいまちの推進に関する施策はわかりにくいように思います。

【事務局】

施設入所から地域社会で生活し、その後、自分の力で生きていくことも重要ですが、まずは第一歩として施設から地域社会に移行されるというのを進める施策が必要であると考えています。

【松村市長】

施設で入所をされている方が地域で生活をしようと思うと、さまざまなサービスがないと地域での生活ができないため、まずはその必要なサービスを整えて地域での生活に移行していくことが必要です。それを計る指標として施設入所者の地域移行を成果指標に設定していますが、これは国全体でこの目標を掲げて取り組んでいるところです。施設入所者を押し出そうとしているのではなく、地域の受け皿をどのように作っていくかを重視しています。支援学校を卒業された方の支援も含めて、成果指標の設定について再度検討します。

【部会長】

p.24 の主な取組4「障害者の就労支援の強化」に「障害福祉事業所」「障害者就労施設等」の両方があるが、すべて障害者就労施設等ではないかと思います。表現を明確にしてほしいです。また、「優先調達」について何を優先調達するか記載してほしいです。

【事務局】

「障害福祉事業所」「障害者就労施設等」は表現を見直しします。優先調達、市が積極的に購入または市役所でロビー販売を進めていくことを想定しているため、わかりやすい表現に変更したいと考えます。

【部会長】

p.2「夢と希望を叶える子育て環境の充実」の分野の目標(目指すべき姿)に「支える」が2回出てきており、表現として気になりました。「宇治市を担う子どもたち」などでもよいと思います。

【事務局】

「担う」という表現に変更することも含めて整理します。

【部会長】

今回の審議内容を踏まえて、文言、表現、内容についてご意見をいただいたため検討をお願いします。事務局から連絡事項等がありましたらお願いします。

【事務局】

日程は事前に配布しています日程調整表で調整します。時期は11月中旬頃の開催を予定しています。

【松村市長】

本日は土曜日で、かつ、足元が悪い中、第2期中期計画の専門部会を開催させていただきました。貴重なご意見をいただく時間となりありがとうございます。今回の専門部会は3つのグループに分かれて実施しており、担当部長が入って議論し、市長や副市長をはじめとする理事者も同席する形で進めています。多岐に渡るご意見をいただき、市としてこれから取り組んでいくべき視点や反省すべき点も広くいただき、これから宇治市を担うべきものとしてしっかりと受け取りました。

重点施策の「こどもまんなか」については、国の取組や市の取組でも「こどもまんなか」という言葉を使用しています。総合計画での位置づけは先ほど説明したとおりであります。こどもがここで育ってほしい、こどもが育てやすい環境であってほしい、そしてなにより、人と人のつなが

りが大切になる社会であってほしいという思いを込めたいと考えています。これから取り組むべき施策の方向性を言葉として盛り込み、だれもが理解できるように、他の専門部会の意見もいただき整理を進めていきます。

---了---